昭和大学歯学部だより　2006．6号

通算31号
2006．6．30発行

歯学部創設30周年

発行責任者：歯学部長　宮崎　隆，編集責任者：広報委員長　五十嵐　武
〒142-8555　東京都品川区旗の台1-5-8　TEL: 03-3784-8000
ホームページ：http://www.showa-u.ac.jp

昭和大学歯学部は創設30周年を迎えます.

歯学部創設30周年記念事業について

歯学部長　宮崎　隆

歯学部創設30周年記念事業については，立川教授と久光教授を中心に準備委員会を発足させ，同窓会役員も交えて鋭意準備にあたってきました.

その骨子は，

1）記念誌の発行
2）記念ロゴの作成
3）記念講演会の開催
4）記念式典・祝賀会の開催です.

記念誌は本年度の法人事業計画に予算計上しました．過去に10周年記念誌を発行しましたが，その後の20年間の歯学部の活動記録をまとめると共に，2年後に予定している大学の80周年記念誌に歯学部のエッセンスを提供します．既に記念誌の編集作業が始まっていますので，各部署のご協力をお願いします．記念ロゴは学部内公募を経て，五十嵐広報委員長がブラッシュアップをしてくれました．本歯学部が医系総合大学である昭和大学の一員として，これまで以上に医学部，薬学部，そして保健医療学部と教育，研究，および診療において連携を深め，患者の生涯の健康に奉仕していく姿勢をイメージしました．今年度はこのロゴを活用して，歯学部のイメージを高めていきましょう．記念講演会は従来12月に開催している昭和歯学会を1ヵ月早めて，11月4日（土）に上條講堂で開催することにしました．交流プログラムを締結した米国南カリフォルニア大学のスラブキン学部長と，日系米国人で初めて米国歯科医師会会長を務めたセキグチ先生の特別講演を企画しています.

同日夕方，会場をホテルオークラに移し，記念式典と祝賀会を開催します．これから案内状を発送しますが，会費制で運営しますので，教員および関係者のご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます.

今年の記念事業を通じて，皆様と一緒に歯学部の発展の歴史を回顧するとともに，将来への新たな飛躍を期したいと思います.

昇任・人事

広報委員（歯科理工）　堀田　康弘

- 倉林　仁美（歯科矯正学）
  平成18年4月1日付け：　助教授に昇任
- 井上　美津子（小児育成歯科学）
  平成18年6月13日付け：　教授に昇任

新任教授挨拶

顎口腔疾患制御外科学　新谷　悟

この度，6月1日付けをもちまして昭和大学歯学部顎口腔疾患制御外科学教室を担当させて頂くことになりました.

口腔外科は，医看薬の各分野との連携を最も必要とする診療科のひとつです．関連する分野の先生方の御指導さらには御協力を得て，急速に進展している歯科医療の将来を見据え，社会からの多様な要請に応えて，科学的な根拠に基づいた新しい診断・治療を提供することができればと考えています．具体的には，前癌病変を含めた早期口腔癌の診断，センチネルリンパ節生検・遺伝子診断・抗がん剤感受性試験などを用いた個別化口腔癌治療，3次元モデルを用いた顎変形症の診断・治療，サイナスリフトや仮骨延長などを応用したインプラント難症例に対する治療，漢方や新しい知見からの口腔粘膜疾患の診断・治療を行って生きたいと考えています．常に新しい診断・治療を，歯学部の基礎・臨床講座の先生方はもとより，医学部や薬学部の先生方のご協力，ご助言のもと，医局員とともに推進してゆきたいと思っています．また，口腔外科を通して歯科医学の重要性を伝え，自ら学び考える能力をもった歯科医師を育てるために微力ながら尽力したいと思っています．よりよい臨床，そのための研究，そしてよりよい歯科医師を育てることが私に課された責務であると考えます．顎口腔疾患制御外科学教室は道健一教授と南雲正男教授により築かれた第一口腔外科学教室と第二口腔外科学教室の再編成により誕生した教室です．今までに築かれた臨床，研究，教育の礎に，医局員とともに，さらなる新しい「よりよく」を求め邁進したいと思います．皆様のさらなる御指導，御鞭撻をよろしくお願い申し上げます.

診療統計（平成18年5月分）

医事課　長谷　孝義

区分	患者数	1日平均	前月 1日平均	前年 1日平均
外来患者	16,713	696.4	704.2	744.2
入院患者	286	9.2	10.3	11.7

歯学部創設30周年記念ロゴ決まる

広報委員長　五十嵐　武

歯学部広報委員会では，本年11月の歯学部創設30周年記念事業にあわせて，30周年記念ロゴ作りに着手してまいりました．去る3月上旬から約1ヶ月間に渡り歯学部内でロゴを公募した結果，21作品のご応募をいただきました．この中から広報委員会で2作品を厳選し，専門家によるブラッシュアップの後，歯学部教授会の議を経て，ロゴマークが完成いたしました．このロゴマークは，創設30周年記念事業のさまざまな場面で利用される予定です．

以下に，ロゴマークの説明を記載いたします．

昭和大学歯学部が創設30周年を迎え，医系総合大学である昭和大学の一員として，これまで以上に医学部，薬学部および保健医療学部と教育，研究，診療面で連携を深め，患者の生涯の健康に奉仕していく姿勢をイメージしました．

詳細：

1．歯学部のイメージとして中央に歯をシンプルに模式化しました．
2．歯の3つの咬頭は医学部，薬学部，保健医療学部をイメージしました．また，大学の使命である教育，研究，診療をイメージしました．
3．歯を取り巻いて握手することにより，歯学部と他の3学部との教育，研究，診療面での連携，協力をイメージしました．
4．歯根の間に歯胚を加えることで，人の成長，発育から老化まで幅広い年齢層に対して医療奉仕し，国民の生涯の健康に貢献することをイメージしました．
5．歯胚は歯の再生を含め，新しい研究にチャレンジすることをイメージしました．

平成18年度昭和大学白菊の集い

口腔解剖学　江川　薫

平成18年度昭和大学白菊の集いが，6月10日に昭和大学7号館で開催されました．当日は天候にも恵まれ，医学部，歯学部の白菊会会員および同伴者197名が出席されました．会は白菊会会員相互の親睦のために毎年行われており，朝早くから来られる会員もいらっしゃいます．

午後1時30分から医学部第二解剖学教室の大塚助教授の開会の辞で始まり，先ず，平成17年度に献体された物故会員のために黙祷が捧げられました．歯学部では13名の物故会員が昨年度献体されました．続いて，細山田学長，片桐医学部長，宮崎歯学部長が挨拶を述べられました．

引き続き講演が行われ，今回は「老年期の物忘れとアルツハイマー病の臨床診断と治療」と題して，国立精神・神経センター武蔵病院臨床検査部長の有馬邦正先生がご講演くださいました．毎年講演を楽しみにしている会員も多数おられ，出席者は皆熱心に耳を傾けておられました．終始和やかな雰囲気で会は進められ，来年の再会を約束して，午後3時30分に歯学部口腔解剖学教室の中村教授の閉会の辞で会は終了しました．

PBLファシリテーター養成ワークショップ

PBLテュートリアル委員長　中村　雅典

本学のPBLは本年で3年目を迎え，今後より一層充実したPBLテュートリアル教育を本学歯学部カリキュラムで行うためには，教員全員がファシリテーターの役割をしっかりと認識し，またその能力の向上が必要となります．そのため，5月20日土曜日に旗の台1号館6階会議室において第2回昭和大学歯学部PBLファシリテーター養成ワークショップを開催いたしました．東京女子医科大学や岐阜大学のワークショップを参考にPBL委員会で企画し，半日という短い時間でしたが，各教室から先生が参加され，皆さん熱心にPBL体験とファシリテーター体験をされていました．今回は口腔の生態系のコーディネーターである口腔衛生学の向井教授も参加者として各先生方と一緒になってワークショップを経験されました．

委員会としては，この養成ワークショップを定期的に開催し，一層のPBLの充実を図っていく予定であります．教員各位の一層のご協力をお願い致します．

CBTワークショップ

CBT委員長　中村　雅典

5月27日土曜日にCBTワークショップを開催いたしました．本年度は機構側から徳島大学の松尾敬志教授と日本大学の桑田文幸教授に来ていただき，CBTの概要から実際の問題作成についてご説明をいただきました．また，参加された先生方には事前に問題作成をお願いして，その問題をグループに分かれてブラッシュアップ後，機構側の先生お二人によるブラッシュアップの実際を経験しました．

本学は残念ながらCBT問題の採択率が極めて悪い状態にあります．その理由として実際のブラッシュアップの仕方が分からないとか採択の基準がよく分からないという意見が多くありました．今回のお二人の先生はこれまで開催してきたワークショップと比較して問題作成者に沿った立場から我々にアドバイスをしていただいたように思われます．本年度の採択率が少しでも上昇することを祈ります．

顎口腔PBLを体験して

歯学部3年　浦野　慎二郎

今回のPBLでは効果的な学習ができたと思います．昨年は齲蝕に関するPBLで，今回は顎関節症についてでした．

PBLでは，まず与えられた課題文（シナリオ）を読み，キーワードを抽出します．その後，患者さんの訴え・検査方法・検査結果・考えられる原因となりそうな点・治療法などを図化し，整理します．視覚化することで，それらの関係を明らかにすることができるようになります．そして，グループでの話し合いの結果，的を絞った具体的な学習項目を決定します．それから，個人で学習項目を調べ，次回に発表しあいます．このような進行方法は，非常に話し合いがスムーズに行え，私にとって有益なものでした．話し合いにより，個人個人の思考の違いを発見できるばかりか，視野が広がり，知識も補いあうことができました．加えて，自分の知識を整理しようと頭をめぐらせて考えることで，疑問点がより明確になり，関心を持って課題に取り組み調べることができました．

このように，PBLは動機をもたない受身の講義とは違って利点が多いと感じました．反面，各班の学習効果の差が大きくなるのも事実でした．生徒が話し合いの場や学習項目について調べる際に，消極的であれば効果は薄くなります．それは個人の意欲や性格，班の雰囲気によるところが大きいと思います．これらを改善していくことで，より魅力的で効果的なPBLになっていくと思います．

顎口腔 PBL を体験して

歯学部3年　宮崎　裕明

ＰＢＬを行うのは２年次に続き2回目でした．前回の「口腔の生態系ＰＢＬ」では，う蝕に関連するシナリオであったため，ある程度予備知識をもった状態でPBLに臨むことができましたが，今回の「顎口腔PBL」ではシナリオから得られる情報に対する私自身の知識が少なく，より自己学習によって学ぶことの多いPBLとなりました．

PBLは，自らが学ぼうという意識をもって臨むことで最大限にその効果を発揮する学習法です．しかし逆に言うと学ぼうという意識を持たなければ効果のない学習法であるともいえます．

今回のPBLでは分からないことが多かったため，自ら学んでいこうという意識が前回より強くなり，前回以上にPBLの効果を実感することができました．ただ，前回，今回とPBL学習をするにあたって，他のグループとの議論の時間が少なく，より多方面からシナリオを理解することができなかったと感じました．しかし，その分グループ内での議論に時間をかけることができたため，グループ内で定めた学習項目について前回よりも深く理解する事ができたと思います．

今回，このPBLという学習方法を通じて感じたのは，常に問題意識をもって学んでいく姿勢を持つことが私たちには必要ではないかということです．また，それはPBLに限った事ではなく，通常の講義に関しても講義内容をそのまま覚えるのではなく，そこからさらに理解を深めていこうとする事が大切なのだと感じました．今回のPBLで感じたことをこれからの学習に活かして，よりよい歯科医師となれるように努力していきたいと思います．

D6選択実習全日程終了

歯周病学　山本　松男

歯学部6年生には，春休み期間中にあたる4月17日から6月16日の8週間に，学内各診療科・講座及び学外，海外を含む広い候補の中から興味のある分野・内容の2プログラムを選択する実習に参加してもらいました（1プログラムは2週間）．

医療現場をはじめ，従来から診療・研究などを精力的に実践されているところへ，さらなるお願いをしたものと思い，現場でのご負担は相当のものであったと拝察いたします．お忙しい中ご協力いただき，誠にありがとうございました．

しかし，その甲斐あって，学生達の感想を聞いてみますと，皆それぞれ大いに刺激を受けたようで，視野の広い歯科医師になるための重要なきっかけになったものと信じております．本実習を来年度以降も継続し，ますます充実させていきたいと考えておりますので，ご協力のほどよろしくお願いいたします．

学会賞受賞者

広報委員長　五十嵐　武

・ 槇　宏太郎（歯科矯正学教室教授）

５月６－９日にラスベガスで開催されたアメリカ矯正歯科学会年次大会において，２年連続で Joseph E Johnson Table Clinic Award を受賞されました．受賞演題名：「What will change by CBCT analysis in Orthodontics?」

・ 岡根百江（高齢者歯科大学院3年）

６月１，２日に開催された第１７回日本老年歯科医学会総会・学術大会（沖縄）において，優秀ポスター賞を受賞されました．受賞演題名：「口腔乾燥感の日内変動に関する客観的指標」

行事予定

広報委員長　五十嵐　武

7月　7日（金）：第11回夏季スポーツ大会壮行会
7月22日（土）：昭和歯学会総会（洗足キャンパス）
7月24－26日：第12回昭和大学医学教育者のためのワークショップ
7月29日（土）：第1回歯学部進学相談会（洗足）
8月18－20日：歯学教育者のためのワークショップ
8月26日（土）：第2回歯学部進学相談会（洗足）

日本歯科医学教育学会に多数の参加

教育委員長　佐藤　裕二

６月16，17日に仙台で開催された日本歯科医学教育学会に本学から25題の演題（全演題157題）が出されました．

日本全国から集まった多数の参加者に対し，昭和大学歯学部で行っている PBL をはじめ，社会と歯科医療，新しい臨床実習，各教室での新しい取り組みなどを紹介することで，教育に対する熱意が示されたものと思います．

そのほか，臨床研修制度，共用試験などの現状についてのシンポジウムも行われたことで，参加者一同がそれぞれ，今後の教育に対する考えを新たにする良い機会でした．今後は，発表した内容を積極的に論文にすることが必要だと考えます．

報道された歯学部

広報委員長　五十嵐　武

・ 去る3月25日（土）に行われた「昭和大学歯学部ハイテク・リサーチ・センター研究プロジェクト成果発表会」に関する記事が紹介されました．

新聞クイント6月号，2006．6．10．3面　：昭和大歯学部，文科省ハイテク・リサーチ・センター選定後初の発表会を開催

・ 口腔リハビリテーション科　兼任講師　和久本雅彦先生が科学技術振興機構(JST)の研究費供与による委託開発プロジェクトで研究された「舌圧センサを用いた電動車椅子コントローラ」に関する記事が紹介されました．

日経産業新聞(6月1日)，サンケイビジネスアイ(Webページ)・JSTホームページで報道されました．

編集後記

広報委員（歯科理工学教室）　堀田　康弘

関東でもいよいよ入梅し，じめじめとした季節を迎えました．一足先に入梅した沖縄では，長雨の影響から土砂崩れや地滑りなど大きな災害が起こり，既に梅雨明けした現在も，まだ避難所生活を続けている方が沢山いらっしゃると聞きます．こうした被災者の方々が，一日も速く普段の生活に戻れることを心よりお祈りいたします．

毎度のことではありますが，お忙しい中，原稿の執筆をしていただいた先生方には厚く御礼申し上げます．特に，この数ヶ月の間は6年生の選択実習もあり，各講座では人手不足が普段以上に深刻な問題だったのではないかと思います．しかし，学生の評価も上々であったとのことで，この新たな教育システムが，将来歯科医師として自立していく学生たちにとって良い結果につながることを期待しています．